

末盛城

（石川県羽咋郡宝達志水町）

すえもりじょう

今回は、石川県の史跡ですが、富山県とも大変関係のある「末森城」をご紹介します。

末森城跡は、海岸線からの距離が最も狭まった標高138.8m



の末森山に所在する中世の山城で、曲輪（城郭）と呼ばれる平坦な部分は、合計すると約3万平方m以上あり、約20万平方mの山中に広がっています。

この城は、前田利家と佐々成政の間で行われた「末森合戦」で広く知られています。成政は、能登半島の喉頸部にあり、過去の戦いで周囲の状況等を熟知している末森城を攻略すれば、加賀と能登とが



分断され、前田の勢力が二分され、能登一国が手に入る可能性もあったことから、ここを奇襲しました。しかし、城将の奥村永福と妻・安の必死の防戦と、利家の並々ならぬ救援への気迫により、成政軍を撤退させることに成功しました。加賀百万石があるのは、利家がこの戦いに勝利したことによると言われるほど、この場所は歴史上重要な意味を持っています。

